

# 四門会

第25号



聖マリアンナ医科大学

耳鼻咽喉科学教室同門会

## 目次

巻頭言	肥塚 泉	4
会長あいさつ	岩武博也	5
医局長あいさつ	三上公志	6
新入医局員あいさつ	鈴木 香	7
	荒井光太郎	8
	笹野恭之	9
	多村悠紀	10
	西本寛志	11
	山田善宥	12
日本気管食道科学会 ポスター賞を受賞して	齋藤善光	13
日本めまい平衡医学会学会賞の受賞について	阿久津征利	14
第76回めまい平衡医学会ポスター賞受賞をうけて	望月文博	15
大学院生便り	四戸達也	16
	稲垣太朗	17
	大原章裕	18
医局報告	医局構成	19
	関連病院連絡表	20
専門外来紹介		
めまい外来	望月文博	21
頭頸部腫瘍外来	赤澤吉弘	22
喉頭・音声・嚥下外来	春日井 滋	23
副鼻腔・アレルギー外来	齋藤善光	24
聴覚外来	谷口雄一郎	25



関連病院だより

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	岡田智幸	26
川崎市立多摩病院	晝間 清	27
横浜医療センター	佐々木祐幸	28
横浜総合病院	田中泰彦	29

OB通信

杉浦夏樹	30
金子卓爾	32
小林健彦	34
松尾有希子	36
小宅大輔	37
東 美紀	38

第18回四門会ゴルフコンペ	大塚崇志	39
第21回四門会理事会議事録		41
第21回四門会 写真		43
会則および編集後記		46

## 巻頭言 今年の出来事

肥塚 泉

早いもので、もう巻頭言を書く時期となった。2017年、本当にこの前始まったばかりだったのにもう11月になってしまった。まさに“光陰矢の如し”である。さて、今年の出来事を少し振り返ってみることにする。1月、アメリカ合衆国の第45代大統領に、いまだ話題に事欠けない、ドナルド・トランプ氏が当初、優勢とされていたヒラリー・クリントン氏を抑えて当選した。“アメリカ第1主義”を振りかざして、我が国を含めて関係諸国がいまだに翻弄され続けている。11月のアジア歴訪では、我が国を最初に訪問し、日本が最大級のおもてなしで迎えたことがまだ記憶に新しい。大統領補佐官でもあるご令嬢のイヴァンカ氏もこれに先立って訪日し、これまた、“国賓級”のおもてなしで接待し、“蜜月関係”と聞こえは良いが、他国から時には、アメリカ合衆国の属国と揶揄されることもある、我が国とアメリカ合衆国との緊密な関係を再認識をせざるを得ない出来事となった。2月には朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の前の最高指導者であった金正日氏の長男であった金正男氏がマレーシアの空港で暗殺された。北朝鮮はこれ以降、ICBMや核爆弾の開発を着々と進めており、8月には、中距離弾道ミサイルを太平洋に向けて発射、これが北海道の上を通過することがわかり、J-ALERTの警報音がテレビやラジオから一斉に流れるという忌まわしい事件があった。10月には神戸製鋼のデータ改ざん、日産自動車とスバルで無資格検査が発覚と、技術立国日本の根幹である信頼性を揺るがすような大事件となった。猟奇的な事件も散見され、座間のアパートで9体のご遺体が発見された事件は特に衝撃的であった。これ以外に地球温暖化が原因と思われるいくつかの異常気象現象（大型台風の発生など）にも今年は遭遇することが多かった。いつも巻頭言を書きながら、来年は良い年であるように願っている。これをお読みになっている諸先生方、諸氏のご多幸を、心よりお祈りするばかりである。



## 会長あいさつ

岩武博也

四門会の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。皆様には日頃より、四門会発展の為に格別のご高配を賜り、誠に有難く心より厚く御礼を申し上げます。

さて、2017年はトランプ大統領の就任に始まり、北朝鮮のミサイル発射や暗殺事件などあまり良い話題もなく終わろうとしています。そんな中、我々四門会にとりましては明るい話題がありました。まずは新入医局員を5名を迎えることができ、四門会総会後にレストラン飛鳥で開かれた懇親会は若い医局員とOB会員が親交をを深めあってとても和やかな雰囲気でした。今年は北里大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授の山下拓先生をお招きし『頭頸部癌治療の話題』のご講演をしていただきましたが懇親会では山下先生も耳鼻咽喉科を目指す若手医師が減少している中、毎年新入医局員が増え続け活気ある同門会の雰囲気をご覧になってとても驚かれておりました。これも医局員が新入医局員の勧誘に真剣に取り組んできた成果が確実に現れているものと思われ今後も四門会としてもバックアップを継続していきたいと考えております。そして四門会にとって2017年の最大のニュースは第120回日本耳鼻咽喉科学会総会(2019年)の宿題報告に肥塚教授が決定したことでしょう。これは我々四門会におきましても大変名誉あることとなります。この大事業を成功させる為にこれから医局員はとても忙しくなるでしょうが是非とも頑張ってくださいたいと思っております。

そして、平成最後のイベントとして来る2018年6月に第80回耳鼻咽喉科臨床学会が開催されます。25年振りに当教室で2回目の主催という事になりますが今回も有意義な学術講演会となりますよう四門会としても最大限の協力をしていかねばならないと考えておりますので会員の皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の今後一層のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。





## 医局長あいさつ

三上 公志

平成 29 年度より医局長に就任いたしました三上公志と申します。平成 16 年に聖マリアンナ医科大学を卒業し、初期研修医制度の第 1 号として研修を終えて、平成 18 年に耳鼻咽喉科へ入局いたしました。当時の医局長は新谷先生であったと記憶しております。今振り返ると当時、医局長の仕事は全くわからず、ものすごく偉い方だと思っておりました。それから 10 年以上が経過し、気が付けば自分がその医局長という大任を担っているということに非常にプレッシャーを感じます。



前任である春日井先生が「シゲノミクス」という素晴らしい目標をかかげ、達成された後に、今の医局に必要なものは何かを考えたところ、今年度より始まる新専門医制度とそれをこなさなくてはならない新たな入局員の新人 5 名および昨年入局した 6 名のことが頭に浮かびました。専門医試験の受験資格としてインターネットでも見れるように、厳密な手術症例とともに臨床での経験の提示が必要となっております。この 2 年間で入局した 11 名の後期研修医たちがきちんと経験できるように指導・教育するとともに、環境を整えていくことが必要であると考えます。私の目標としてはシンプルに「教育」として、今後も継続して新入局者を迎えるためにも、まだまだ未熟ではありますが若手がしっかりと育成されるよう力を注いでまいります。

今後四門会および学会等でお目にかかることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



## 新入医局員あいさつ

鈴木 香

加藤先生の代わりに10月より参りました鈴木香と申します。私は平成20年に慈恵医大を卒業し、東京厚生年金病院(現 JCHO 東京新宿メディカルセンター)にて研修いたしました。もともと内科希望でしたが、子供から大人まで診ることのできる耳鼻科に興味を持ち、初期研修後は母校の慈恵医大耳鼻科に入局いたしました。



入局後は慈恵医大附属病院、附属柏病院で後期研修を行い、中目黒にある東京共済病院、そして再び慈恵医大附属病院に戻って勤務しておりました。

この度、縁あってマリアンナでお世話になることになりました。

マリアンナの印象は医局員のみなさんの仲が本当に良いということです。歓迎会を開いていただいた時も、本院だけでなく西部病院や多摩病院の先生方もいらして下さり本当にうれしかったです。アットホームで愛ある医局だなあと感じました。

現在、私はめまい外来を担当させていただいておりますが、先生方のお話は学術的で理論的で「さすが、めまいはマリアンナ!」と思うと同時に、自分の不勉強を痛感している毎日です。肥塚教授のもとこれから勉強させていただければと思います。今後とも何卒よろしくお願いたします。

## 新入医局員あいさつ

荒井 光太郎

今年度入局致しました荒井光太郎と申します。

神奈川県にて出生し、同県で育ちました。聖マリアンナ医科大学で学び、同大学病院で初期研修医生活を過ごした後、平成 29 年度から西部病院に勤務しております。

研修当初は入局先が漠然としており、また不器用な点からも外科関連は候補外でした。しかし様々な科で学ぶうちに、多様な手術や外来診療等様々な面をもつ耳鼻咽喉科学に惹かれてゆきました。

現在は、横浜市西部病院にて 3 名の上級医の先生方に御指導賜りながら、扁桃摘出術等の手術や外来診療、病棟管理に取り組んでおります。また夜間救急当直は本院にて行っており、単独当直となった今多少の緊張や不安はありますが、毎回の業務に真摯に向い学ばせていただいております。

また今年度は同期が 4 人となり昨年度入局者とあわせて 11 人と多く、疑問点や問題点を相談しやすい環境であると同時に、診療や手技の面からも刺激を受け充実した生活を送っております。

反省の多い日々でありご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、適切な医療を提供できるよう精進して参りますので、今後とも御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



## 新入医局員あいさつ

笹野 恭之

今年度、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に入局させていただきました笹野恭之(よしゆき)と申します。

出身は横浜市で、平成 27 年に昭和大学を卒業後、静岡県浜松市の聖隷三方原病院で2年間初期研修を行いました。もともと進路としては外科系を考えておりましたが、毎回の救急外来で小児の診療に携わり、将来小児に関っていたいと思ったこと、感覚器という人の日常生活に直結する分野に魅了されたことが耳鼻咽喉科医となることの決め手になりました。

入局先について色々悩んでいた際に、聖隷三方原病院耳鼻咽喉科の部長をされていた同門の梅原先生に聖マリアンナ医科大学のお話を伺い、見学させていただきました。

突如入局希望として現れた私に対しても優しく接して下さる先生方の人柄の良さ、各分野でのエキスパートの先生方がいらっしゃることも知り、そして飲み会の雰囲気も良さも肌で感じ、入局させていただきました。

現在は本院の急性期班に所属し、手術では扁桃摘出術や鼻副鼻腔手術などの経験をさせていただき、病棟業務や外来業務も諸先生方に優しくご指導いただき日々充実した生活を過ごさせていただいております。

まずは耳鼻咽喉科の一般的な技術・知識を身につけることが第一の目標です。また、今後は臨床だけでなく研究や教育に関しても貢献していきたいと考えております。

まだまだ未熟な点が多く、諸先生方にご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、何事も貪欲に邁進していきたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





## 新入医局員あいさつ

多村 悠紀

平成 28 年度より入局させて頂きました多村悠紀と申します。

私は父が小児外科医で、学生時代から将来は小児科医になりたいと考えておりました。小児科医になるにあたり、鼓膜所見や咽頭所見が分かるようになりたいと考え、初期研修医 1 年目の時に耳鼻科をローテートいたしました。2 ヶ月間という短い研修期間で、非常に多くの経験をさせて頂き、急性期疾患、頭頸部腫瘍、めまいなど幅広い分野があることを知り、耳鼻科に段々興味を持つようになりました。そして、診察や手術の助手を沢山経験できただけでなく、扁桃摘出術やリンパ節生検、舌白板症の切除術を執刀する機会も頂きました。貴重な経験をさせて頂く中で、手術手技をしたいという気持ちがどんどん大きくなっていきました。もともとの夢であった小児科医の道も捨てきれず悩んでおりましたが、外勤先などの外来では小児と触れる機会も沢山あるという先生方のお話を聞き、耳鼻科に入局を決めました。

現在は本院で、病棟、外来、手術と全てにおいて日々先生方に御指導を頂いております。先生方全員が非常に優しく、いつでも丁寧に御指導下さり、とても充実した後期研修医生活を送っております。未熟な点ばかりですが、少しでも力になれるよう日々精進して参りたい所存ですので、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。

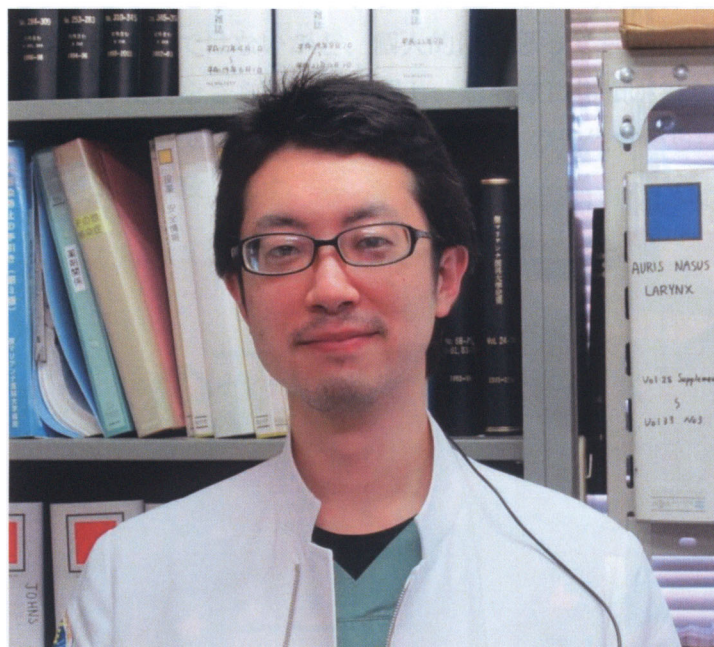




## 新入医局員あいさつ

西本 寛志

この度、耳鼻咽喉開局に入局させていただきました西本博と申します。  
どうぞよろしくお願いいいたします。  
神奈川県足柄市で生まれ、桐蔭学園高等学校を経て聖マリアンナ医科大学を卒業、同大学病院で研修を行いました。  
耳鼻咽喉科で開業している父の影響もあり、学生のと時から進路は耳鼻咽喉科 1 本で考えていたため、同期が入局先に悩んでいる傍らで早く研修が終わらないかと待ち遠しく思っていました。  
耳鼻咽喉科は領域が広く多岐にわたっているため必要とされる知識量も多く、苦戦しつつも先生方を頼って何とか日々を過ごしております。  
現在は本院の急性期班に所属し、感染症の管理や耳や鼻などの手術を中心に経験しています。  
昔から細かい作業が好きだった私にとって、特に内視鏡や顕微鏡を用いた手術は非常に興味深く、楽しく学ばせていただいております。  
また大学院にも入学し、聴覚班の先生方のもとで研究などお世話になっております。  
入局から半年余り、まだまだ不慣れなところばかりです。  
今後も先生方にはご迷惑をおかけしますが、臨床、研究ともにご指導ご鞭撻をお願いいいたします。



## 新入医局員あいさつ

山田 善宥

今年度、聖マリアンナ医科大学病院耳鼻咽喉科医局に入局させていただきました山田善宥と申します。私は岡山県の川崎医科大学を卒業後、聖マリアンナ医科大学病院で2年間初期臨床研修をさせていただきました。私の父親は聖マリアンナ医科大学を卒業後、耳鼻咽喉科医局に入局し現在は福島県郡山市で開業しております。小さい頃から耳鼻科医の父親の姿を見て育ち、いつからか自分もその背中を追って耳鼻科医を目指していました。初期臨床研修では、耳鼻科で合計6ヶ月間研修させていただき、医局の先生方には本当にお世話になりました。扁桃腺の手術から、気管切開などの様々な手技や外来業務を経験させて頂き、充実した研修生活を送ることができました。そして、マリアンナに来てよかったと心から思いました。

入局してから現在、外来や手術を中心に日々学ぶことは多く、上級医の先生にご指導頂きながら、充実した後期研修生活を送っています。今年度は同期入局者が5人と恵まれており、みんなで助け合い頑張っています。

まだまだ未熟であり、多くの方々にご迷惑をお掛けしておりますが、日々成長するように精進いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。





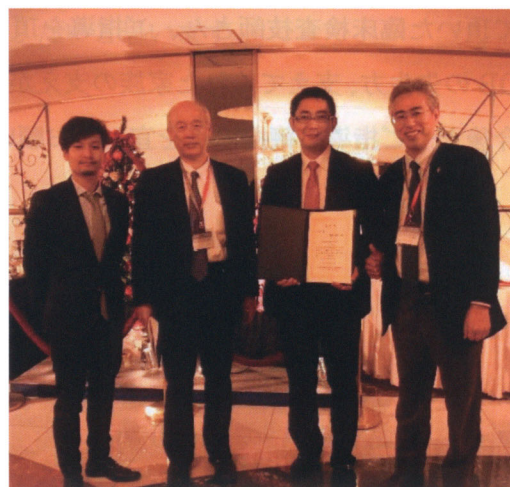
## 日本気管食道科学会 ポスター賞を受賞して

齋藤 善光

今回、2016年11月17日~18日に、京王プラザホテルにて開催された【第68回 日本気管食道科学会】に、「当科における咽喉頭・食道異物症例の検討」の題目元、ポスター発表をさせて頂きました。私自身、本学会への参加は初めてでしたが、気管食道科学会ということもあり、参加者は耳鼻咽喉科医のみではなく、消化器や呼吸器、麻酔科といった他分野の先生方も多数参加しており、大変有意義な学会でした。

咽喉頭食道異物は耳鼻咽喉科医にとって日常診療で多々遭遇する疾患の一つではありますが、異物同定ができなかった際の画像の必要性や摘出方法等で、困惑する場面も多々存在する疾患でもあります。私は、以前から視診にて異物が同定できなかった場合（特に小児における魚骨異物症例）、どのような診療を行う事がベストであるか迷うことがあり、今回このような検討をさせて頂きました。実際に、過去5年間（2011年4月~2016年3月：994症例）の評価を行ってみると、自分の診察をした記録も多数存在し、過去の自分がいかに上級医の先生方と比較し、軽率で雑な診療をしていたか痛感されるものでした。本当に恥ずかしくなるレベルです。この様な複雑な心境の中でしたが、今回の結果で多数の診療の助けとなる情報を得ることができ、大いに有意義な検討ができたと思います。また、自分が調べたい、知りたいと思う内容を目的とした検討で、ポスター賞を取れたことは本当にうれしい限りでした。正直、自分が受賞した際は、喜びというよりは驚き以外何もありませんでしたが……。そして、本学会には当院研修医の先生（来年当科に入局を決定された先生です）も参加をしてもらっており、少しは聖マリアンナ耳鼻咽喉科として良いところを見せることが出来たのではないかと、個人的には思っております。

今回の検討をさらに有効活用し、患者様に信頼が得られるような医療をさらに行っていきたいと考えております。今後とも、OBの先生方からは変わらぬ御指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 日本めまい平衡医学会学会賞の受賞について

阿久津 征利

この度、光栄なことに 2016 年度日本めまい平衡医学会学会賞を頂きました。

現医局員の中では、宮本先生、三上先生が受賞しており、まさにめまいの中核を担っている方々と同じ道を歩むことができ、大変光栄なことと感じております。

元々は、私の大学院の研究テーマは肥塚先生が続けている前庭動眼反射の可塑性についてでした。当初ゴーストの故障、研究結果が思ったデータが出ないとかなりの苦戦を強いられました。加えて初めての英語論文であり、論文を書くこと自体に完全暗礁に乗り上げてしまいました。そこで北島先生、肥塚先生に助けて頂きなんとか論文の形を呈してきました。しかしながら、考察が不十分であり、このままではどこにも **accept** されないのではという状況に陥りました。そこで肥塚先生から、もう一つ論文になりそうなものはないかとお話があり、肥塚先生のご尽力で導入された当時珍しかった **vHIT** と帝京大学の室伏先生からご教授頂いた **VEMP** を組み合わせた前庭の個別化診断に当時力を入れており、施行してありました。施行数は 100 例ほどありましたが、一番分かりやすい前庭神経炎を対象としました。

この平衡検査一連を行うと一人当たり 3 時間ほどかかってしまい、午後の大半を使っておりました。臨床検査技師さんにも多大な苦勞をかけ、また指導医の先生には手術に入れなかったり、病棟業務をして頂いたりとかなりのご負担をおかけし、大変ご迷惑をおかけ致しました。この場を借りて心より陳謝致します。

今回の賞は私一人の力でなし得たものではなく、私の研究の全てを準備し道を作って頂いた肥塚教授、忙しい中何十通にもわたり私の論文添削をして頂いた北島先生、一緒に頑張って頂いた臨床検査技師さん、ご指導を頂いた医局員の皆様、患者さんを紹介頂いた近隣の OB の先生方、支えてくれた家族の支えがあってこそです。本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。



## 第 76 回めまい平衡医学会ポスター賞受賞をうけて

望月 文博

平成 28 年 4 月から、聖マリアンナ医科大学へ赴任させて頂いた望月文博と申します。私は、平成 24 年に埼玉医科大学を卒業し、東京慈恵医科大学柏病院で初期研修を終え、耳鼻咽喉科の道を歩むため、東京慈恵医科大学の耳鼻咽喉科へ入局いたしました。耳鼻咽喉科での業務の中で、赤外線フレンチェルで映し出される眼振の美しさと、そのメカニズムに魅入られておりました。そのため、めまい分野を専門にしたいと思っていたところで、肥塚先生がいらっしゃる聖マリアンナ医科大学への赴任する機会を頂き、非常にうれしく感じておりました。

この度、「重心動揺計による非ベンゾジアゼピン系睡眠導入薬の平衡機能への影響評価」という演題発表に対して賞を受賞させていただきました。この研究は、6 人の健常者にルネスタ®、ベルソムラ®、プラセボを三日間かけ、二重盲検法にて投与し、覚醒時の動揺を重心動揺計にて測定するという内容でした。この研究は、JCHO 東京新宿メディカルセンターの石井先生を中心に行いました。私は、主に重心動揺検査の計測項目を、ひたすらに解析、統計を行っておりました。統計、解析をないがしろにしてきた私は、四苦八苦しておりましたが、肥塚先生をはじめたくさんの方にご指導いただき、形にすることができました。

私にとっては、現在ご指導して頂いております聖マリアンナ医科大学の先生方と、変わらず御指導して頂いております慈恵医科大学の先生方両方からのご教授を受けた演題が受賞いたしましたので、喜びも二倍といった形でした。

今回、このような賞を受賞できたことは、先生方からのご指導、ご鞭撻のおかげだと痛感しております。今年から、聖マリアンナ医科大学の大学院生として入学させて頂いたこともあり、今後とも研究、論文、発表と精進してまいりたいと思います。

## 大学院生便り

四戸 達也

大学院 2 年目の四戸達也です。私の現在、大学院で行っている研究内容を中心にご報告させていただきます。

現在、私は『視覚入力の前庭一眼反射（半規管一眼反射および耳石一眼反射）におよぼす影響』について大学院で研究を行っております。これまで、北島先生、三上先生、宮本先生、阿久津先生など諸先輩方が行われてきた研究の続きとして行っています。今回は新たに回転検査装置内部に平面スクリーンを導入し、そこに投影されたストライプ状の光線による視覚刺激を加えることによる半規管一眼反射および耳石一眼反射の影響を考察しております。対象は医局員スタッフや医学生などを対象として協力いただいております。今後は学会での発表ならびに論文作成を予定しております。

また、本学の大学院の特徴としては、日常診療と並行しながら研究を行うことができ、研究以外の日常診療も同時に学習することができる点にやりがいを感じております。日常診療ではめまい関連が中心となっておりますが、先日 11 月末に行われました日本めまい平衡医学会でも先天性眼振に関する一例報告でめまい関連では初めてポスター発表をさせていただきます、貴重な経験ができました。

まだ、上級医の先生方のアドバイスを多数お借りしながらめまい診療や研究を行っている状況ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻の程、お願いいただければ幸いです。簡単ではありますが、現状の報告とさせていただきます。

## 大学院生便り

稲垣 太朗

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学大学院生の稲垣太朗と申します。私は聖マリアンナ医科大学大学院に在籍をしておりますが、2017年4月より東京女子医科大学内にある先端生命医科学研究所で細胞シートを用いた新規治療の研究をしております。ここで簡単に細胞シートの説明をさせていただきます。従来の細胞培養の方法では培養細胞を酵素処理する必要があったため培養細胞をシート状に回収することはほぼ不可能でした。しかし、鼻粘膜や皮膚から組織を採取した後、特殊な培養皿を用いることで培養細胞の形態を崩さずに細胞の回収ができる細胞シートの作成が可能になりました。この細胞シートの大きな利点としては、移植のしやすさであると考えられます。この技術を用いて細胞シートを傷害部位に移植し今まで治療が困難であった疾患の新しい治療法の開発につながるのではと考え日々実験を行っています。具体的にはウサギの外耳道・中耳傷害モデルに対して細胞シートの移植を行い、その生着率や治療効果等を内視鏡や3D-CT、組織学などから多面的な解析をしております。

また聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科では東京慈恵会医科大学との合同の臨床研究も行っており、こちらのお手伝いもさせていただいております。中耳真珠腫症例に対して手術の3週間前に外来にて鼻粘膜を採取し細胞シートを作成します。この細胞シートを、真珠腫を取り除いた後、中耳腔に移植することで術後の真珠腫再発防止に寄与すると考えられています。2017年には聖マリアンナ医科大学でも事前に東京慈恵会医科大学で培養した細胞シートを手術当日に当院へ輸送し、真珠腫の患者に移植する当院一例目が無事成功しております。基礎研究が臨床へ還元された症例であり、私の中では研究に対する意欲が一層増したきっかけとなりました。

このように再生医療は日進月歩の分野ではありますが、その進歩に遅れをとらないよう研究を続けていこうと考えております。

## 大学院生便り

大原 章裕

2017年4月から大学院に入学しました、大原章裕と申します。

私が大学院生となった理由は、人の役に立ちたい、原因究明のために研究がしたい、などといった崇高なものではありませんでした。めまいで高名な肥塚教授の下で、何となくめまいの研究をして、何となく学位がとれば、といった今振り返れば軽薄で愚蒙な考えだったと思います。

しかし実際に大学院生となり、諸先生方の下でめまいについて学んでいく内に考え方が変わっていきました。

まずめまい診療に関心を持つことができ、眼振からの推察や、様々な検査などから先人達の智慧が慮られ、とても感銘を受けました。そして実際にそれらを用いた診察を行い、診断、治療につなげていくことが今ではとても興味深く思えます。もちろん上手くいかないことも多くありますが、その一つ一つも勉強になっています。

また先日、ありがたいことに、第76回めまい平衡医学会総会で一般演題として発表をさせて頂きました。自身の研究や、その準備として調べた文献、学会での他の研究から、研究することの楽しさも学ぶことができました。今後は積極的に研究を行い、また学会に臨んでいきたいと思えます。幸いにも2017年度に続き、2018年度も5人の入局者が決定しており、後輩達にも研究することの楽しさを伝え、守り立てていきたいです。

第80回耳鼻咽喉科臨床学会総会、宿題報告も控えており、諸先生方にお力添えを頂くことが多くあると思えますが、精進して参りますので今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



## 医局構成

平成 30 年 3 月 1 日現在

名誉教授	竹山 勇
客員教授	大橋 徹・加藤 功
教 授	肥塚 泉
准 教 授	岡田智幸・晝間 清・谷口雄一郎
講 師	赤澤吉弘・春日井 滋・佐々木祐幸・宮本康裕
助 教	三上公志（医局長） 明石愛美・阿久津征利・井戸光次朗・斎藤善光・鈴木 香・ 中村 学・深澤雅彦（国内留学中）・藤田聡子・
任期付助教	小野瀬好英・神川文彰・川島孝介・笹野恭之・多村悠紀・山田善宥
大学院生	荒井光太郎・稲垣太朗・大原章裕・四戸達也・西本 博・望月文博
非常勤講師	芋川英紀・岩武博也・大草方子・越智健太郎・小宅大輔 木下裕継・工藤典代・釵持 睦・佐藤成樹・新谷敏晴 武田憲昭・中村 正・日比野 浩
登 録 医	及川貴生・北島明美・高橋 姿
研 究 員	犬飼賢也・加藤弓子・山田善一
診療技術員	北林圭子・久保田恵子・久保田成美
医局秘書	新山静江
教授秘書	秋山恵子
関連病院	AOI 国際病院、麻生総合病院、稲城市立病院、川崎市立多摩病院、 癌研有明病院、共立蒲原総合病院、京浜総合病院、左近山診療所、 島田総合病院、国立病院機構横浜医療センター、 総合高津中央病院、ソレイユ川崎、秦野赤十字病院、淵野辺総合病院 横浜甞生病院、横浜市西部病院、横浜総合病院

（50 音順敬称略）

## 出張病院および外勤病院

病院名	赴任医師	電話	fax
西部病院	岡田智幸 中村 学 川島孝介 荒井光太郎	045-366-1111	045-366-1190
多摩病院	晝間 清 阿久津征利 井戸光次朗 大原章裕	044-933-8111	044-930-5181
国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸 神川文彰	045-851-2621	045-851-3902
横浜総合病院	田中泰彦	045-902-0001	045-903-3098
癌研有明病院	新橋 涉	03-3520-0111	03-3570-0343
AOI 国際病院	外勤医師	044-277-5511	044-277-5747
麻生総合病院	外勤医師	044-987-2522	044-988-0878
稲城市立病院	外勤医師	042-377-0931	042-379-1310
高津中央病院	外勤医師	044-822-6121	044-822-7995
共立蒲原総合病院	外勤医師	0545-81-2211	0545-81-2208
京浜総合病院	外勤医師	044-777-3251	044-777-7319
左近山診療所	外勤医師	045-352-4184	045-352-4183
ソレイユ川崎	外勤医師	044-959-3003	044-954-5581
淵野辺総合病院	外勤医師	042-754-2222	042-757-4170
横浜甞生病院	外勤医師	045-301-0533	045-303-5736

## 《めまい外来》 金曜 PM

担当医：肥塚 泉、三上公志、鈴木 香、望月文博、四戸達也

2015年4月から、聖マリアンナ医科大学で働かせて頂いております望月文博と申します。加藤先生が東京慈恵会医科大学病院へ異動となり、新たに東京慈恵会医科大学病院から鈴木香先生が当大学へ赴任となりました。鈴木先生は、前病院でめまいを専門に外来診療をされておりました。また、めまい分野を、臨床大学院で研究している四戸先生も加わり、今年度は肥塚先生はじめ5人の耳鼻咽喉科医が金曜日の午後に担当させていただいております。

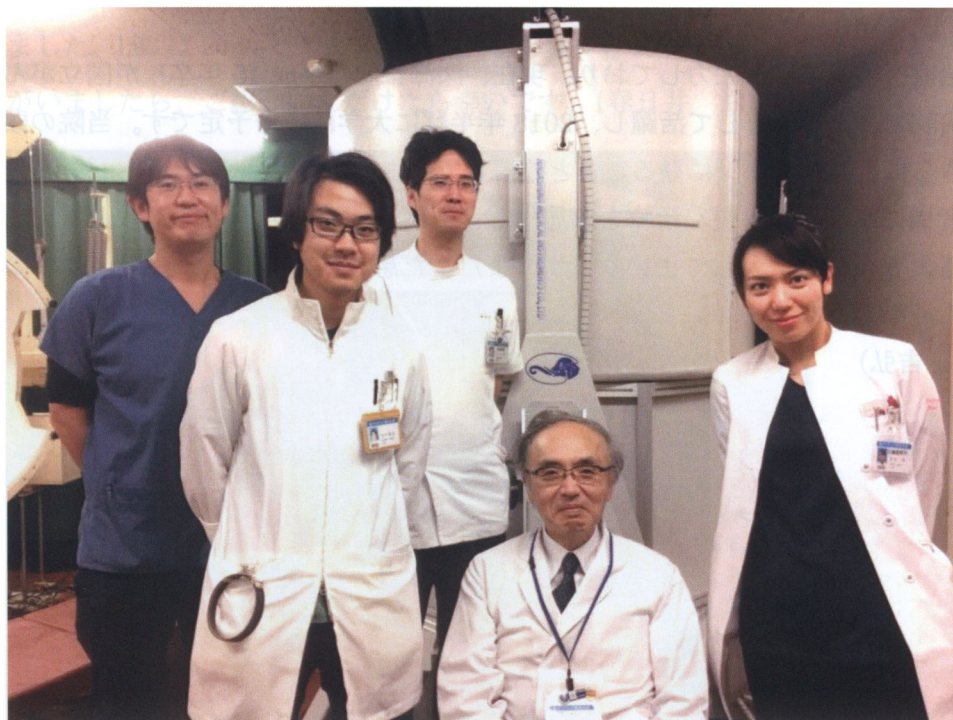
いつも多くのめまい疾患患者様をご紹介いただき感謝しております。前庭神経炎に対するステロイド加療や、メニエール病患者への中耳加圧加療など他施設共同研究も無事に終わることができそうです。

今後も、前庭神経炎をはじめ多彩なめまい患者様の診療及び加療が、さらなるめまい分野の発展につながると感じておりますので、引き続きご紹介いただけますと幸いです。

中でも、平衡医学界で非常に注目されております V-HIT、VEMP 検査機器がそろっており、内耳機能検査の精密さにかけては当院ならではの特色と感じております。

また、優秀な検査技師さんが3名いらっしゃることで他院では予約して行う検査も当日行えることで、患者様の負担も少なくすんでいるのではと思っております。

今後も、肥塚教授指導のもと、より良いめまい診療ができるよう努力してまいりますので、よりしくお願い申し上げます。(望月文博)





## 《頭頸部腫瘍外来》 火曜日 AM

担当医：赤澤吉弘、三上公志

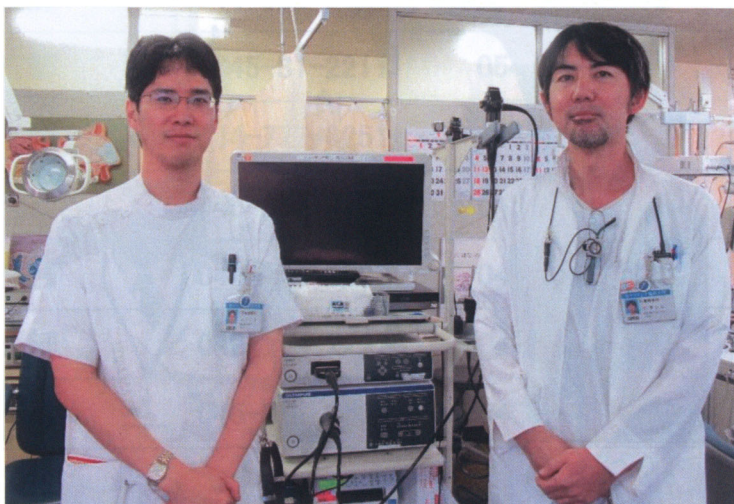
頭頸部腫瘍外来は毎週火曜日の午前中に赤澤（平成 10 年卒）、三上（平成 16 年卒）の 2 名で診療しています。

近年の頭頸部癌治療は化学療法が非常に重要な役割を果たしています。具体的には根治治療前に行う導入化学療法、根治を目的とした化学放射線療法、根治手術後に行う化学放射線療法、そして再発転移に対する化学療法があります。特に再発・転移症例の化学療法が進歩し、標準治療の cmab/CDDP/5FU 療法により全生存期間 10 か月以上が期待できる時代となっています。また近年話題の免疫チェックポイント阻害薬 nivolumab（オプジーボ®）も頭頸部領域の適応となり、当院でも続々と症例を重ねております。他にも多数のレジメンが存在し、根治治療が望めない患者様にも、まだまだ諦めるのは早いと説明できるようになりました。これらを背景に入院患者の約 7 割は何らかの化学療法を使用しており、さながら化学療法科といった様相です。また化学療法は外来でも行っており、レジメンにより通院治療でも行っています。化学療法は日々の進歩が目覚ましく、知識のアップデートが大変です。

手術もできるだけ積極的に取り組んでいます。昨今の放射線治療成績の向上や経口切除をはじめとする低侵襲手術の増加に伴い、拡大手術や頸部郭清は減少傾向にあります。少なからず存在する再建手術症例には、癌研有明病院で指導医として活躍し、頭頸部外科医で世代 No1 と目されている新橋渉先生（平成 13 年卒）にお手伝いいただき良好な治療成績を収めています。

次世代の治療医の育成にも注力しており、現在、深澤雅彦（平成 15 年卒）が国立がんセンター中央病院でスタッフとして活躍し、2018 年半ばに大学に復帰予定です。当院の頭頸部癌治療がさらに上のステージに登ることと確信しています。

地域の患者様に高度かつ良質な治療をお届けし、近隣の開業医の先生方からより信頼していただけるよう今後も努力してまいります。まだまだ患者様の受け入れは可能ですのでご紹介よろしくお願いたします。（赤澤 吉弘）



## 《喉頭・音声・嚥下外来》 水曜AM

担当医：赤澤吉弘、春日井滋

専門外来は、例年と変わらず毎週水曜日午前に赤澤先生と私の2名と非常勤として岩武先生に第1、3木曜日午前に来ていただいております。一昨年および昨年入局した神川先生と山田先生に未来の喉頭班を担うべく、現在勉強をしてもらっております。

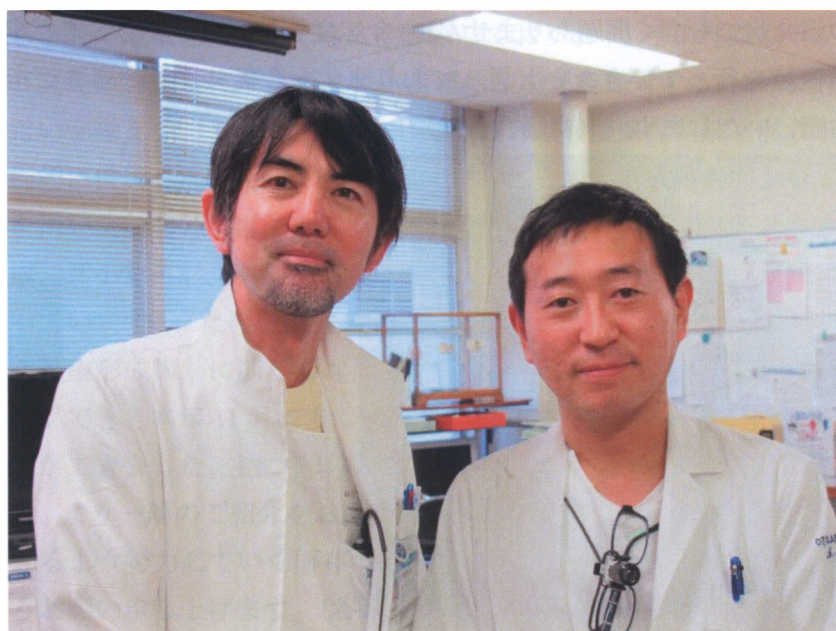
平成28年度の喉頭分野における手術実績は顕微鏡下喉頭微細手術（LMS）50件、ELPS（endoscopic laryngo-pharyngeal surgery）6件、音声機能改善手術（甲状軟骨I型+披裂軟骨内転術）3件、喉頭全摘後のプロボックス2件、誤嚥防止手術2件でした。

音声に関しては、LMSや音声機能改善手術前後でストロボスコープやGRBASスケール、MPT・MFRを評価しています。

平成29年度は誤嚥防止手術として、初めて声門閉鎖を取り入れてALSの症例に3件施行しました。以前に呼吸器が必要なALSの症例に喉頭全摘を施行した際に、カニューレの角度が合わず困った経験があり、声門閉鎖はカニューレの必要な患者に良い適応と考えております。

今年度も5名、新人が入局しました。今後の喉頭班を盛り上げるために、自分自身ももっと音声や嚥下について勉強し、教育を頑張っていきます。

最後に、新専門医制度が平成30年度から適応となり、手術数で募集人員の制限が設定されました。LMSは20件で1人後期研修医を募集できます。是非とも適応のありそうな患者様がいましたら、ご紹介いただけたら幸いです。（春日井 滋）





## 《副鼻腔・アレルギー外来》 水曜PM

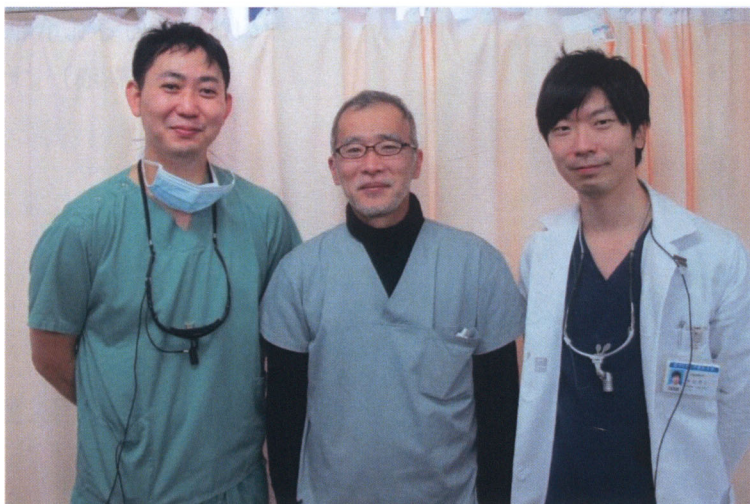
担当医：宮本康裕、齋藤善光、笹野恭之

副鼻腔アレルギー外来は2017年4月より宮本康裕、齋藤善光、笹野恭之の3人体制で行っております。外来は水曜日の14～17時の予定ですが、多数の予約患者様がいらっしゃる状況で17時過ぎまで外来診療を継続しており、患者様、外来スタッフには大変ご迷惑をおかけしております。また、紹介患者様には待ち時間等でご迷惑をおかけしており、紹介医の先生方にも大変申し訳なく思っております。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

2016年度の手術室での手術件数は、鼻中隔矯正術：48件、下鼻甲介手術：76件、内視鏡下鼻副鼻腔手術Ⅰ～Ⅴ型（慢性副鼻腔炎／鼻腔腫瘍等含む）：127件、後鼻神経切断術：4件を行いました。内視鏡下鼻副鼻腔手術では前頭洞病変に対してはDraf typeⅡ/Ⅲ、腫瘍を含めた上顎洞病変に対してはEMMM（endoscopic modified medial maxillectomy）、強い前弯を伴った鼻中隔彎曲症に対してはHemitransfixion approachによる前弯矯正術も行っております。また、嗅神経芽細胞腫をはじめとした、頭蓋内に進展した鼻副鼻腔腫瘍に対しては、脳神経外科との合同手術を施行し、良好な術後経過が得られております。

下鼻甲介手術や鼻中隔手術、鼻副鼻腔手術に関しては、全身麻酔下での手術を基本としておりますが、患者様の年齢や全身状態、日帰り手術の希望がある場合は、適時局所麻酔下での手術も行っております。また、舌下免疫療法（SLIT）としては、スギ花粉症に対するシダトレン®（スギ花粉舌下液）、ダニアレルギーに対するミティキュア®（ダニ舌下錠）を適時施行しております。

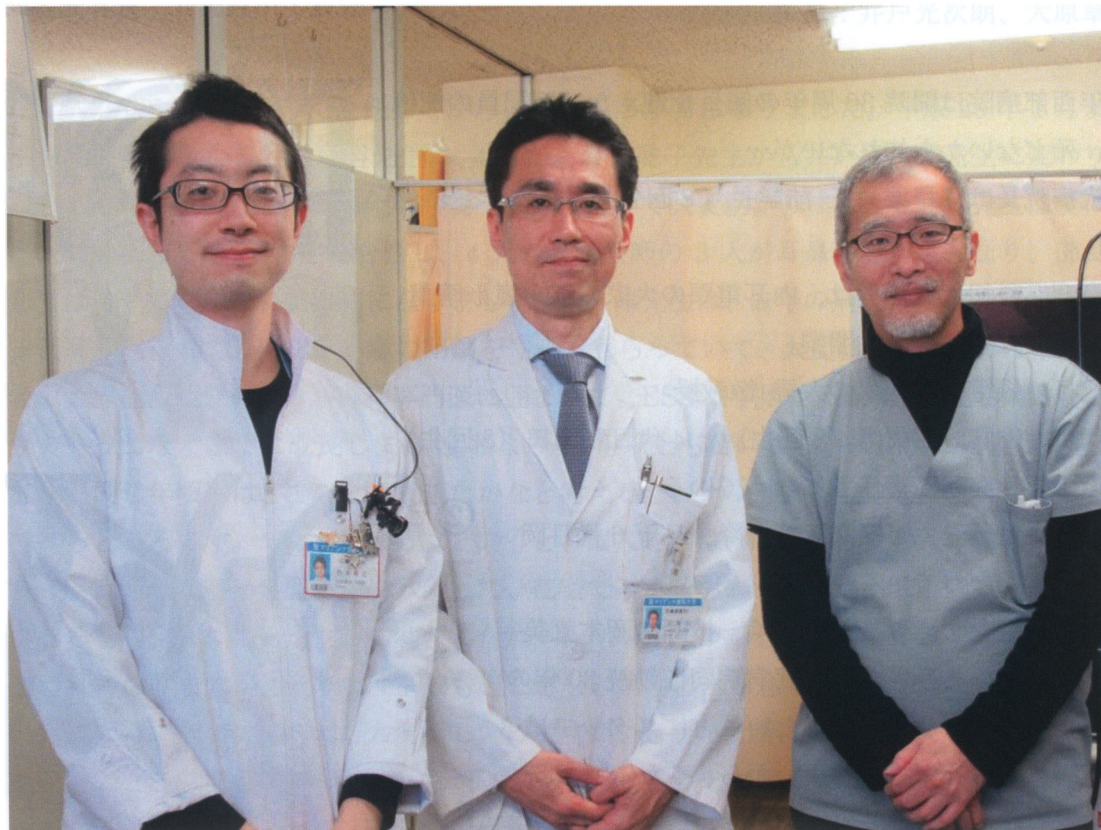
近隣の先生方のご紹介のおかげもあり、手術症例に関しては増加傾向を認めておりますが、まだまだ不足している状況です。鼻副鼻腔外来では、舌下免疫療法の導入症例や嗅覚障害、その他の鼻副鼻腔疾患も随時受け入れておりますので、ご紹介を宜しく願致します（直接鼻副鼻腔外来宛の紹介状でも全く問題ありません）。今年度も先生方が安心してご紹介できるよう、誠意ある医療を行っていきたく思っております。今後共より一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。（齋藤 善光）





## 《中耳・聴覚外来》 木曜PM

担当医：谷口雄一郎、宮本康裕、西本寛志、越智健太郎、木下裕継、鈕持睦



現在、聴覚外来は谷口雄一郎、宮本康裕、西本寛志、越智健太郎(非常勤)、木下裕継(非常勤)、鈕持睦(非常勤)の6名で診療を行っており、慢性中耳炎、中耳真珠腫などの手術症例から小児の遺伝性難聴まで幅広く診療しております。手術件数は年々増加しており、今後は中耳真珠腫、癒着性中耳炎といった難治性中耳炎に対する外科的治療をさらに推進していきたいと考えております。術式としては外耳道後壁保存型鼓室形成術を基本とし、内視鏡を積極的に併用した **approach** を行っていくことで手術成績も向上しております。さらに内視鏡を用いた新しい手術法を積極的に取り入れ、内視鏡下でのアブミ骨手術をはじめ、外リンパ瘻、耳小骨奇形、小児先天性真珠腫などに対し経外耳道的内視鏡下耳科手術 (TEES) を行っています。また再生医療を応用した新しい治療法である『鼻腔粘膜上皮細胞シートを用いた鼓室形成術』に関しては再生医療新法に基づく特定認定再生医療委員会の承認を得ることができ、本年11月に多くの先生方の協力のもと、無事に第一症例目の手術を施行することができました。主に中耳真珠腫、癒着性中耳炎が主な対象疾患になると考えておりますので、より一層のご紹介をお願いできれば幸いです。今後も、患者様により良い医療が提供できるよう努力していく所存でありますので、何卒より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。(谷口 雄一郎)



## 関連病院だより 《西部病院》

部長：岡田智幸

主任医長：中村 学

医員：川島康介、荒井光太郎

本年西部病院は開院 30 周年の節目を迎えた。医局員の記憶は、殆どないかも知れないが…

初代病院長は、戸栗栄三 前学長（8 回生入学後に学長に就任）

耳鼻咽喉科初代責任者は、内耳電頭の大家の五十嵐淑晴講師（新潟大卒）後に、開業。

二代目 蝸電図の大家の大橋 徹教授

三代目 佐藤成樹講師（8 回生）と 4 代目私岡田（8 回生）

がその後、交互に責任者になっている。

その後、佐藤先生が開業して以降、目下 6 代目岡田が担当となっている。

本年は、記念すべきことが多く、技師の岡本直美さん、寺田ひろみさんも西部病院同様勤続 30 年の表彰を受けている。ありがたいことにスタッフは 3 人体制（岡田、中村、井戸）から、4 人体制（岡田、中村、川島、荒井）となった。

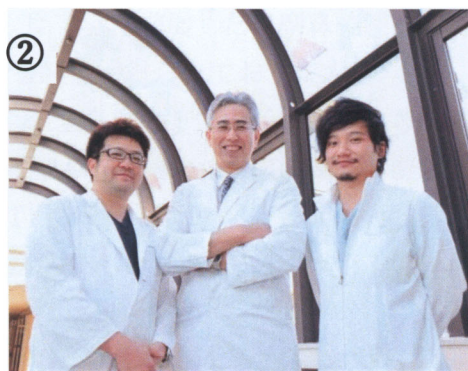
4 人体制となり、院内の評判は上々だが、院長の評判は悪い。

3 人体制で臨んだ開院 30 周年記念集（DVD）に掲載された写真を見ていただきたい(写真①、②；この時の岡田のネクタイは戸栗先生からいただいたもので、長持ちしている)。これも、院長が文句いいところだと思われる。

さて、井戸光次朗先生を多摩に送り出し、井戸先生は専門医試験を見事 A 判定で合格（すばらしい）、川島孝介先生と荒井光太郎先生が西部に赴任され、忙しい割には、収益に結びつかない今日この頃である。

中村 学先生のおかげでクリニカルパスも充実し、仕事量の軽減につながりつつある。少しでも笑みを浮かべた我が西部 4 人衆の写真③を見ていただきたい。

今年も草の根の西部耳鼻咽喉科の広報活動と「顔の見える」地域連携の会を兼ねた忘年会を中華街「菜香新館」で開催する予定である。



## 関連病院だより 《川崎市立多摩病院》

部長：晝間 清

主任医長：阿久津征利

医員：井戸光次朗、大原章裕

平成 28 年 4 月に新しく赴任してから、早くも 2 年目になりました。平成 29 年 1 月より小野瀬好英先生から大原章裕先生に、4 月から藤田聡子先生から井戸光次朗先生に変わりました。阿久津征利先生には、今年も残っていただいて大変助かりました。井戸先生は夏の専門医試験にみごと A 判定で合格し、4 人の常勤医師の 3 人が耳鼻科専門医となり、部長としては、やや誇らしい気持ちになりました。阿久津先生は、去年の病院の予算で買ってもらった耳用内視鏡で、外リンパ瘻の閉鎖をやらしてもらっていて、大変頼もしい限りです。一番若い大原先生は、3 人の耳鼻科専門医に囲まれて、ESS（内視鏡下鼻内副鼻腔手術）をひとりでやりこなすまでに成長しました。私より 20 年以上も若い彼らの成長が微笑ましく思え、自分が同じ年頃には、ここまでできたかなと考えると、今の先生たちの成長は早いと感じているところです。一方、私の方はというと、個人的には、母親が特養老人ホームの入所が叶い、父親が介護療養型病院に入院して、在宅でみる苦勞から解放されて、ほっとしているところです。鈴木院長先生からは、マイナー系の外科として予定手術の件数を増やすように言われておりますが、一方では事故も起こさないようにとも念を押されました。皆ができるようになってきているのは、大変嬉しいのですが、そういう時には得てして事故も起こりやすいものと肝に銘じて手術には取り組んでいます。もう一つ嬉しいことは、初期研修医の先生方が耳鼻科医をめざして、当院での研修を望んできてくれたことです。マリアンナ本院のような豊富な症例はないのですが、“山椒は小粒でもぴりりと辛い”といったところを見せたいなと思っております。研究の方はまだまだですが、目下、教育を含めた診療の充実が重要と考え、がんばるつもりです。





## 関連病院だより 《横浜医療センター》

部長：佐々木祐幸

医員：神川文彰

### 「NHO 横浜医療センター耳鼻咽喉科便り（第8回）」

外来日は月～金の午前8時30分～11時30分。H29年4月から待望の研修医派遣が始まり、第1期生として当地でパパになったばかりの神川先生が活躍しております。毎週金曜日の手術日は大学からの外来診察医派遣を頂き、4月から現在まで西本先生に担当をお願いしております。1日平均30人程度の受診者数ですが、2診体制になったため新患・紹介状担当と再来担当を割り振ることが出来るようになりました。新刊担当は月・水が佐々木、火・木が神川です。金曜日は意図的に外来予約数を絞っており、少ないときは一桁台の受診患者数です。H28年10月から、全受診日で紹介状無し・予約無しの新患を制限しております。あまり名誉なことではありませんが、今年度は病院の収支がリニューアル以降初めての赤字に転落しそうです。

入院数は昨年度の平均が約3人で増加、昨年11月から今年10月までの入院手術件数は計110件、主な内訳はESSが29件、(アデ)扁桃25件、アデノイドのみ8件、デビ8件、チューブ挿入19件、LMS5件です。外来での小手術を追加して120件程度と思われます。あとわずかで日耳鼻研修施設認可を申請可能になります。周辺の先生方のご支援を頂ければ幸いに存じます。

当地に出向してから8回目の冬を迎えておりますが、H22年度にリニューアルした当院の外観、内装、設備などはまだキレイです。

原宿交差点付近の混雑状況に大きな変化はありません。気がかりだった嚥下内視鏡(VE)件数は、明らかに増加し、神川医師が嚥下担当医師として週2回、日に数件ずつVEを行っております。現状では外来患者へのVEは施行していません。

外来看護師は1名ですが、曜日によりCブロック(耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科)担当の3、4名のうち、1名が交代で診察介助を行っています。医療事務(MA)の樋口は引き続き当科担当となっております。



## 関連病院だより 《横浜総合病院》

部長：田中泰彦

私事ですが、昨年度をもちまして退局させて頂きました。退局に際しまして肥塚先生はじめ諸先生方には温かいお言葉を頂戴致しました。入局以来ご指導を頂きました先生方、この場をお借り致しまして感謝申し上げます。有難うございました。肥塚先生、当院院長の平元先生のご厚意もあり昨年引き続き勤務させて頂いております。昨年同様一人常勤です。昨年の電子カルテ導入後、耳鼻咽喉科医にとって必ずしも使い勝手の良いとは言えない電カルを前に、紙カルテならもう少し患者数も診られて昼休みもゆっくり取れるのに…。などと思いながら日々過ごしております。昨年との変更点は、慈恵医大から形成外科常勤で牧先生がいらっしゃった事です。現在火曜日非常勤の同科教授宮脇先生は、15年来当院の非常勤(医局秘書の田中さん情報)で、過日神奈川県地方部会学術講演会でも講演されましたが、H17年以降、同大学に於いて耳鼻咽喉科と合同で鼻中隔外鼻形成術を行っております(詳細は地方部会報 Vol.30, No4:15-17 もしくは第118回日耳鼻予稿集 120-543:0-089 をご参照下さい)。また、水曜日非常勤の積山先生も広島の日耳鼻で外鼻形成に関して発表をされている先生です。このような有難い環境下、現在まで1例、今後もう1例の合同手術を予定しております。1例目の方は、鼻中隔前彎が強く、合同手術をお願いしましたが、前鼻棘が脱臼しておりました。軟骨性斜鼻もありましたので術後、鼻閉はもとより鼻筋も通ったとの事で喜んで頂いております。手術及び入院患者数は、昨年に比べ増えてはおりますが、まだまだ少ない状況です。近隣の先生方にもお願いし無理のない範囲で症例数を増やせればと思っております。非常勤、代診でいらっしゃって頂いている医局員の先生方、手術を手伝って頂いておりますOBの先生方、有難うございます。今後とも宜しく願い申し上げます。



OB



## 通信 ヒルクライムやっています。

杉浦 夏樹

「イヤーつらい」「やめたい」「でもヤメレナイ」と自問自答しながら、自転車のペダルを漕ぐ、回す、踏む。この舞台は富士山の麓から5合目まで連なる登坂の有料舗装道路、スバルライン。私は、今や8千人を超える日本一の参加数を誇る自転車のヒルクライムレースに10年間連続出場しています。距離24キロ、高低差1200m 霊峰富士山を上る全国の坂バカが集う自転車レースの大イベント。



2013. 6月

ここ最近、「先生、最近なにやっているの?」「ゴルフやらないの?」と聞かれると「ロード(いわゆる競技用自転車)で、ヒルクライム(登りだけの坂だけのレース)やっているんですよ」と答えています。自転車(以下ロードバイクとします)で競技をやり、自転車に乗っています。となんては言わないで、ロードやっているんですよ。とかヒルクライムやっているんですよ。という言い方になります。そう、思えば40歳からの私の趣味と言えば、ロードバイクで登りのみをはしるヒルクライムです。

きっかけは、ひょんなことから。10年前ちょっと、仲の良い友達から中学生以来のロードバイクを買え替えてみない?と誘われロードバイクを購入した時から。この時はみんなで秋川溪谷にツーリングに行きました。これが、アルミとカーボンの混合フレームでした。お値段20万円少しオーバーぐらい。ホームセンターでは1万円で自転車を買える時代。自分も最初、何の知識もない段階で、自転車で10万以上なんてとんでもないと思っていました。それが趣味とは、げに恐ろしいことに、今思い起こすと、随分安い買ったな一となってしまいます。現在は練習用、本番大会決戦用と2台持っていますが、決戦用はもう最終兵器的です。軽自動車は楽に買えます。ゴルフと比べればプレイフィーもかからず会員費も無いから、トータルで安上がりだし身体にいいしと、かみさんを納得させています。

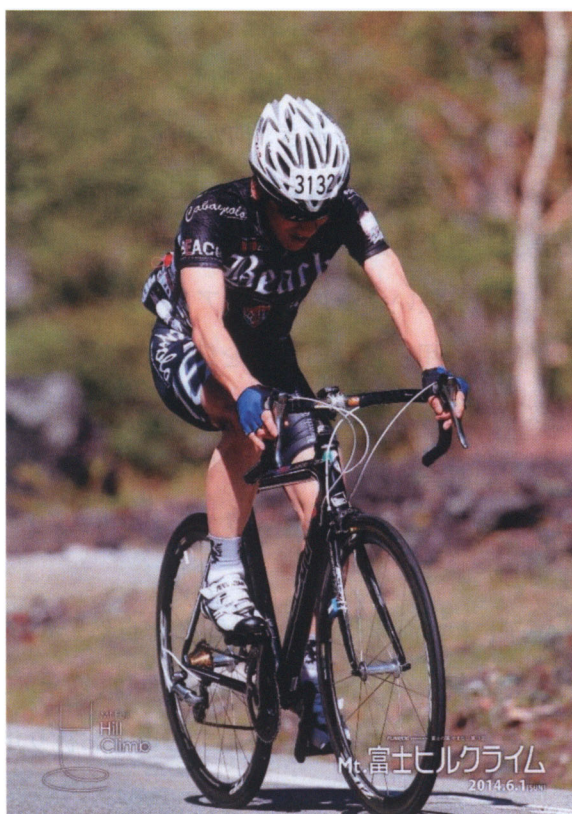
この今どきのロードバイクはとにかく驚くほどよく進みます。初めて乗った感覚は所謂、雲の上をスーッと進む感じ、こんな乗り物あんの?と面白いもん見つけ、みたいな感じでした。平地で無風、良く舗装された道路なら脚力があること前提ですが、時速50キロオーバーを生身の人力で出せるのは面白いし、爽快です。ヒルクライムレースはすべて登りなので体重、自転車重量がタイムに影響します。そうするとバイクフレームはフルカーボン、特に駆動部の軽量化は加速度がかかるので欠かせずタイヤ、チェーンまで毎年少しずつ買替えて隔々まで絞り込みます。今や人差し指1本でバイクをもちあげられます。自動車はどん



な好きな人も F1 カーを買って乗れませんが、ロードバイクは自転車界の F1 級最高レベルのものが乗れると例えられます。とは言ってもレースでは、ある程度上位の競技者はみんなフルカーボンで走りますのでバイクで結果に大きな差はつきませんが。

さて、肝心のレースですが、自分は常にベストタイムが目標、順位ありきの気持ちで毎回走っています。練習は負荷値 (250W など)、ペダル回転数を設定して心拍数を見ながらやっています。日々データを取っているので前年より設定を上げてやります。それを毎年大会開催6月の半年前からトレーニングを開始します。大会終了後、半年は休みます。それでも半年、かなり厳しい負荷のかかった練習で、7年目までは毎年ベストを更新。年代別で約1200人中42位が最高。年齢に逆行してタイムが段々短縮、順位が上がるのは快感でした。ヒルクライムレースはごく一部のトップ選手以外は基本的に駆け引きはないので、練習量に比例してタイムが上がるとされる正直さ、分かりやすさは練習のし甲斐があります。しかし、ここ3年は練習量最多更新なのにタイムは下降気味(汗)。さすがに年齢が。。。と言いつつ訳したくなる今日この頃です。で今年は大会終わっても、初の試みで1年通して練習やるつもりで続けています。

ヒルクライムをやっていると、よくマゾだねーとか、よくやるねーと友人に笑いながら言われます。そこまでの魅力はと言うと、50近辺のおじさんには久しい、大会での緊張感、高揚感、決戦感、登り終わったときの富士山5合目からの風景、達成感でしょうか。荒い呼吸音、速い鼓動だけが自分に響く中、上っている最中にふと競技以外のことも考えます。辛すぎて、逆に頭がクリアになり考え事や悩み事に解決策が浮かんだりします。これも面白いです。1年に一度、富士山詣で修行といったところです。どんなにつらくてもレース時間が1時間半以内というのも自分には合っています。長いマラソンは全く興味がありません。あとはバイクのメカニックを考えるのも好きですね。最後に全部登りなので、平地で高速で転倒したらまず骨折ですが、それがまずない、仕事に支障をきたさないのは大事でしょうか。それに減量、酒断ちし



2014. 6月

ていた大会後の酒のうまさは格別です。ここ10年、全国的にもヒルクライムはブームです。日本人向きとも言われています。富士ヒルクライム大会は8千人以上集まっちゃうんです。

さあ、来年もベスト目指して、四の五の言わず年齢にあらがいやってみます。

## OB 通信

かねこ耳鼻咽喉科

金子 卓爾

四門会の先生方、ご無沙汰しております。開業当時に初めて投稿させて頂いた日から十数年が経過し、すっかり町医者となっております。新専門医制度も混乱している面もありますが、学会の出席回数、滞在時間(?)が確実に増え、OB の先生方と会場でお会いする機会も多く、私の様な怠け者には大変良い事と思っております。

さて、3年程前にとあるニュース番組を見ていると、昔懐かしいマリアンナの手術室が放映され、同級生の麻酔科准教授と、ファシリティドックが紹介されました。盲導犬、聴導犬、介助犬などは以前より知っていましたが、ファシリティドック（動物介在療法）は初めて耳にしました。病院で医療スタッフの一員として常勤し、病棟を周回して患者さんとふれあい、一緒にベッドで寝たりして、入院によるストレスを精神面でサポートしています。また、小さいお子さんと手術室に行って、緊張や恐怖を和らげるために寄り添う等の活躍をしているとの事でした。日本国内では、まだ数匹しか認定されていないようです。

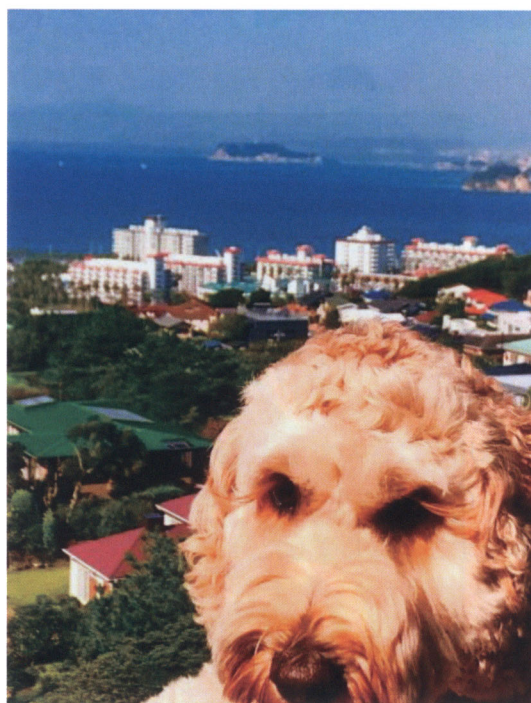
ちょうど50歳を過ぎ、何か新しい事を始めるなら今かなと考えていましたので、この放送を見て「そうだ大型犬を飼ってみよう！」と思いました。長らく気楽なマンション暮らしの為、大型犬を飼う事は出来ませんでした。早速、逗子に土地を購入して一軒家を建てました。環境が整いオーストラリアン・ラブラドゥードル（Bandy🐕）というファシリティドッグによく用いられる犬種を飼い始め、生活が一変しました。朝夕の散歩、餌の準備、しつけ教室への参加、トリミング等、毎日が目まぐるしく過ぎていきます。

気が付くと、開業以来年々増え続けた体重もかなり減り、長年の悩みであった肩こりと腰痛も改善されました。何よりも、Bandy のパパさんとして多くの犬仲間の友人や知人ができました。

逗子には、海岸や披露山公園など自然豊かな散歩コースが沢山あります。四門会の先生方で犬をお飼いの方は御連絡を下されば、いつでもご案内させていただきます。

最後に教室の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。







## OB 通信

小林 健彦

皆様、ご無沙汰しております。会長の岩武先生よりOB通信の依頼を頂きましたので、ご報告させていただきます。

平成 18 年 3 月に最後の赴任地である、銚子の島田総合病院の勤務を終了し、医局を離れた後、色々ありまして現在は東京都狛江市にある、こまえ耳鼻科クリニックの管理者をしております。

多摩川をはさんですぐ登戸であるため、多摩病院の先生方には大変お世話になっております。(中村学先生、いつぞやは助けていただき、ありがとうございました。医局のありがたみをすごく感じました。)

近況として、仕事の話はさておき、趣味のお話などさせていただこうかと思えます。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、良くバイクでのツーリングを楽しんでおります。年に 2 回ほど、泊まりでのツーリングをしており、今年も滋賀県から京都の天橋立まで行ってきました。島田病院のある銚子にも年に数回、買い出しツーリングと称し、かへいや(岡田先生ご存じですよ?)と温泉、海の幸を堪能しに行っております。

もう一つ、最近のマイブームとしては、野球観戦にはまっております。

ひいきのチームは何故か、千葉ロッテマリーンズです。(銚子で勤務していた際は全く興味なかったんですが。)

3 年前より千葉マリスタジアム(現在の名称はZOZOマリスタジアム)に行くようになり、ホームゲームだけではなく、今年は所沢のメットライフドーム、大阪の京セラドーム大阪、仙台のKOBOPARK宮城にも遠征しました。

今年のベストゲームは何と言っても、9月24日の井口資仁選手の引退試合です。

試合カードは千葉ロッテマリーンズ対日本ハムファイターズです。

たまたま事前応募しておいたチケットが当たったから良かったものの、事前にチケットは完全完売で、試合前は異常な盛り上がりでした。

試合は千葉ロッテが3回の裏に先制するも、7回、8回に得点され、3対1で迎えた9回の裏、

もう試合終了かと思った所、先頭打者の清田選手がライト前ヒットで出塁、その後に井口選手が打席に立ち、なんと同点の2ランホームラン!

(野球の試合をみて初めて泣いてしまいました。)

その後、延長12回で鈴木選手のサヨナラヒットでマリーンズの勝利でした。

今年はパリーグ最下位でしたが、来年は井口監督のマリーンズに期待です。

来季は優勝の監督胴上げで泣いてみたいものです。





## OB 通信

松尾 有希子

平成 9 年入局の松尾有希子と申します。

アメリカマイアミで人生の修行を積んで約 6 年前に帰国しました。

近況をお話ししたいと思います。

医師として...

三軒茶屋徒歩 10 分の住宅地で雇われ院長として開業し約 1 年半。スタッフに支えて貰いながら頑張っています。こんな私が長いブランクから復帰出来たのは、肥塚教授を始めとする諸先生方の指導があったから。又現医局員の方々にも色々と助けて頂きました。本当に皆様には感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。

母親として...

娘まいやは 13 才。顔は私で中身アメリカ人。来年夏からアメリカの高校に入学すると決めています。今迄私にも言えない苦労が沢山あったと思いますが、文句一つ言わず私に黙ってついて来てくれました。そんな彼女が、渡米しアメリカの大学に進学してゴルファーになりたいと自分で決めました。今その目標に向かって親子二人三脚で頑張っています。学費が高くて心臓が飛び出ますが...私は彼女の宇宙一の理解者なのでやるしかありません。皆様、温かく見守っていて下さいね。

1 人娘として...

父親は現在も競争激しい渋谷で歯科医として頑張っております。先月父が 45 年頑張って来た松尾歯科をこの先も末長く存続する為に院長交代を決めました。この選択に至るまで一緒に悩みましたが、来て下さっている患者の皆様に安心して頂く為の 80 歳の父親の決断。これから父から受け継ぐ歯科医院の経営を後継ぎの歯科医としっかりやる事が、私を医師にしてくれた父親への親孝行だと勝手に思い込んでます。渋谷を乗っ取る位のつもりで挑むつもりです。

医師として諸先生方や支えてくれた方々に感謝、

母親として娘に感謝、

1 人娘として、親に感謝...

私を支えてくれる皆さまに感謝

沢山の感謝の気持ちをパワー変えて頑張っていきます。本当にありがとうございます。

相変わらず暑苦しい私ですが、末長くお付き合いください！また皆様にお会い出来る日を楽しみにしております。



## OB 通信 運命的な・・・

小宅 大輔

約1年前から時間があれば、顔を出すアパレルショップが鎌倉にあります。

今年の夏いつものようにショップに行くと、店主が服の箱詰めをしていました。「郵送もしているのですか？」と聞くと、「昔からのお客さんにね。」とのこと、「どこに送るのですか」と聞いてみました。今思えばこの一言が運命的な出会いへいざなうことになるとは。



「茨城です。地元ですから。」実は、私も茨城出身です。出身が一緒だったので「最寄りの駅はどこですか？私は〇〇です！」と聞いてみました。

「エッ！」かなりのトーンで返答されました。なんと同じ市内の出身だったのです。さらに、私がO中・店主がS中でした。これ隣の中学校なんです。「でも世代が違いますからね。私O中のサッカー部よく知ってますよ。S君・M君とか特にM君は高校も同じだから茨城からここに来てくれたことあるんですよ。」との店主の言葉に鳥肌がたちました。なんと私の同級生の名前が・・・縁もゆかりもない土地鎌倉で、ふと立ち寄ったお店の店主と隣の中学校の同級生だったのです。そこからは来店した方々には、目もくれず地元ネタに花が咲きました。

やっと私の鳥肌がおさまったころ、「何部だったのですか？」と聞かれました。「野球部です。」と答えたところ、「野球部のキャプテンって足が速いO中の目の前の病院の・・・」またchicken skinに「それ俺ですよ～」  
「エッ～」もうお客さんは店に入れなくなりました。



毎日真面目に頑張っていれば、神様がこんなご褒美をくれるのかな？と思いました。これからは初心を忘れないように、頑張っていこうと思える出会いでした。

帰りがけに、名刺交換をしました。名刺を見ると、〇〇さん、そこでまたgoosebumpsです。地元の市内で一番有名なサッカー選手で、私の隣の高校にいった有名人でした。お店は、‘バードマウンテン’大先輩の赤尾耳鼻咽喉科の近くです。お近くにお寄りの際は、是非お立ち寄りください。



## OB 通信 耳鼻科にも漢方

東 美紀

マリアンナ同門会の皆様、こんにちは。各先生方があらゆる方面でご活躍のことと拝察致します。今回、OB 通信の原稿依頼を賜り、取るに足らない近況で恐縮ですが、報告させていただきます。

現在は、大学 OB・OG の複数のクリニックでお世話になっており、理解ある先輩方の計らいで、なんちゃって漢方外来を細々とやらせていただいております。漢方好きが高じて、どうせ勉強するならと、漢方専門医を取得しました。

自分が学生の頃には、漢方医学の講義はなく、他大学や製薬会社が主催する勉強会に参加したり、専門医の研修を受けていく中で、少しずつ理解してきたつもりですが、臨床応用していくにはまだまだ奥が深いです。耳鼻科領域に用いられる漢方方剤には、病名処方的に比較的運用しやすいものもあれば、漢方独特の証をしっかりとらないと、うまくいかない場合もあります。耳鼻科の外来は、基本スピード勝負ですね。しかし、しっかり証を見極めようとするとかなり時間がかかってしまいます。そこで問診を工夫したり、診ていくポイントをはずさないように、なるだけ手際よく舌診・脈診・腹診を追加したりしています。

大人への漢方処方がだいぶ慣れてきたので、最近子どもにも導入し始めました。子どもの場合、第一の関門が服薬できるか否かの問題です。大人でも苦手な方はいらっしゃるのですが、子どもともなれば結構大変で、多くの場合、服薬にかかわるお母様との協力体制が肝になります。漢方の服薬指導に熱心な小児科の先生や薬剤師さんの情報を集めて、飲めなかった時の対処をアドバイスすることもしています。

ここに来て、抗生剤の適正使用について国を上げて働きかけが始まっています。よく薬剤耐性菌が問題になる低年齢保育園児での反復性や遷延性の中耳炎・副鼻腔炎こそ漢方のよい適応ではないかと考えています。うまくコントロールできている子は、鼻をたらしながらも、重症化しにくくなっていったり、抗生剤を使う頻度が低下したりする場合もあり、もちろん漢方が万能ではないですし、まめな鼻処置も大原則だと思っているので、そのあたりをトータルで考え、うまく漢方を応用していけたらなあと思論んでいます。

## 第 18 回 四門会ゴルフコンペ

大塚 崇志

平成 29 年 10 月 1 日(日曜日)少し早めの秋晴れで湿度も低く気温も気持ちの良いゴルフ日和でした。神奈川県三浦半島にある葉山国際カントリー倶楽部ダイヤモンドコースで第 18 回四門会ゴルフコンペが開催されました。参加者 18 名と診察が日々忙しい中、たくさんの御参加どうもありがとうございました。今回は加藤功先生も久しぶりに御参加され大活躍でしたが惜しくも 3 位となり、見事に優勝したのは桑原大輔先生でした、準優勝はゴルフ歴はまだ浅い渡辺昭司先生でこんなにゴルフお上手とはビックリいたしました。

僕から見れば皆とても上手く見えて、あ〜いつまでたっても教えられることばかりだな〜と情けなくなります。先日ゴルフスクール入会したので来年までには少しは戦えるようになれたらいいなと、こっそり練習はじめています。僕のゴルフはまだまだへたくそですが、広々とした大自然の中、いろいろ(仕事や遊び)教えていただいた先輩方と何気ない会話しながらのゴルフはとても楽しいイベントでした。今回は OB 会員だけになってしまいましたが、次回は現役医局員の先生方も参加して頂けたらと思います。久しぶりにお会いする OB の先生方との、微妙な緊張感もゴルフをしているとなんとなく体になじんできます。何事もはじめは気合が必要ですがやってみると面白かったというのが本音です。来年からもよろしくお願いします。

次回は平成 30 年 9 月 30 日(日)に第 19 回四門会ゴルフコンペを開催する予定です。多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

葉山国際カントリー倶楽部

四門会  
2017 年 10 月 1 日(日)

競技方法: 神・ハンディ  
+DCP(男) 上級: 99.9  
準レター

打撃組数:  
+DCP(女) 上級

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱

順位	競技者名	アイアン 10打	アイアン 15打	GROSS	PDCP	NET
優勝	桑原 大輔	41	43	84	16.0	68.0
準優勝	渡辺 昭司	47	48	95	25.0	70.0
3位	加藤 功	56	49	105	35.0	70.0
4位	寺田 ひろみ	52	46	98	27.0	71.0
5位	信清 重典	45	47	92	20.0	72.0
6位	宮部 聡	44	44	88	15.0	73.0
7位	菅野 澄雄	42	47	89	16.0	73.0
8位	赤尾 一郎	45	42	87	13.0	74.0
9位	田澤 卓	48	52	100	26.0	74.0
10位	岩武 博也	40	44	84	9.0	75.0
11位	鳥越 達也	50	50	100	24.0	76.0
12位	佐久間 淳	55	49	104	28.0	76.0
13位	倉田 文雄	50	48	98	20.0	78.0
14位	萩野 貞雄	45	45	90	11.0	79.0
15位	鈴木 正彦	42	49	91	12.0	79.0
16位	上杉 恵介	54	55	109	29.0	80.0
17位	越智 健太郎	46	43	89	8.0	81.0
18位	大塚 崇志	64	67	131	41.0	90.0





## 第 21 回四門会総会議事録

1. 会員数内訳（平成 29 年 11 月 26 日現在）

総会員数：136 名  
うち現医局員：29 名
  2. 会員異動  
田中 泰彦 平成 29 年 3 月 31 日 退職  
(横浜総合病院)
  3. 新入会員  
笹野 恭之 平成 29 年 4 月 1 日 入職  
多村 悠紀 平成 29 年 4 月 1 日 入職  
山田 善宥 平成 29 年 4 月 1 日 入職  
荒井 光太郎 平成 29 年 4 月 1 日 入職  
西本 寛志 平成 29 年 4 月 1 日 入職  
鈴木 香 平成 29 年 10 月 1 日 入職
  4. 退会会員  
加藤 雄仁 平成 29 年 9 月 30 日
  5. 会計報告（平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月）

裏面参照
  6. 平成 29 年度役員人事  
会 長 岩武博也  
副会長 渡来潤次、服部康介  
顧 問 竹山 勇、加藤 功、大橋 徹  
推薦理事 肥塚 泉  
理 事 赤澤吉弘、芋川英紀、上杉恵介、  
越智健太郎、勝見直樹、木下裕  
継、  
黒田寿史、倉田久美、釧持 睦、  
小松崎 靖、佐久間 惇、  
佐々木祐幸、佐藤成樹、新谷敏  
晴、  
スミス馨子、田中泰彦、晝間  
清、  
南 定、宮部 聡、宮本康裕、
- 谷口雄一郎、渡辺昭司 (50 音  
順)
- 監 事 飯田 順、岡田智幸  
事務局長 三上 公志
- ・ 飯田 順先生と渡来潤次先生が今年度で定年となった。
  - ・ 新監事として芋川英紀先生が承認。
  - ・ 平成 30 年度から春日井 滋先生が新しい理事として岩武会長より推薦され承認。
7. 平成 29 年度四門会賞  
佐藤 成樹  
梅原 毅  
斎藤 善光  
阿久津 征利  
望月 文博
  8. 第 80 回耳鼻咽喉科臨床学会  
期間：平成 30 年 6 月 28 日～6 月 30 日  
場所：パシフィコ横浜  
同門会として 100 万円寄付することが承認された。
  9. 第 120 回日本耳鼻咽喉科学会総会（平成 31 年）  
宿題報告に肥塚教授が決定した。
  10. 同門会より 30 年度も新入医局員勧誘費として  
30 万円援助することが承認された。
  11. 平成 30 年度四門会総会  
日時：平成 30 年 12 月 2 日  
場所：京王プラザホテル  
次期会長（平成 31 年 4 月～）を決定
  12. その他




平成28年10月～平成29年9月


	収入	支出
平成27年度繰越金	¥3,974,947	
平成28年度年会費	¥920,000	
四門会誌第24号印刷費		¥169,826
28年度総会 参加費	¥790,000	
総会 ホテル支払い		¥704,106
総会 秋山・鈴木日当		¥20,000
通信運搬費		¥41,262
慶弔費		¥75,222
勧誘費		¥300,000
四門会賞(2名分)		¥100,000
振込み手数料		¥432
利息	¥33	
	¥5,684,980	¥1,410,848
次年度への繰越金	¥ 4,274,132	

監査報告

平成29年9月30日

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室  
同門会(四門会)  
会長 岩武 博也 殿

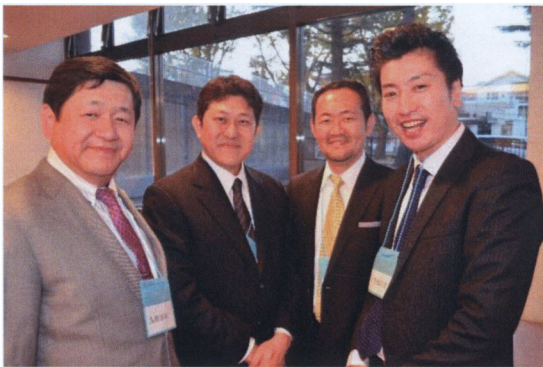
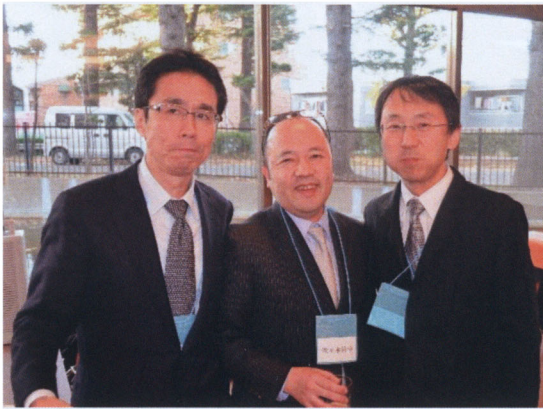
飯田 順 

監事 岡田 智幸 

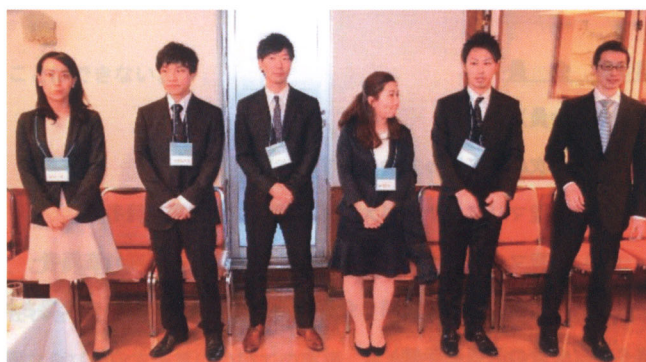
聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室 同門会(四門会)平成28年度収支決算に関する証拠書類を慎重に審査しましたところ適正であることを認めます。  
また、会務は適切に施行されていることを認めます。













# 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

## 第1章 総 則

### 第1条（名 称）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

### 第2条（事務局）

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

## 第2章 目的および事業

### 第3条（目 的）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

### 第4条（事 業）

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

## 第3章 会 員

### 第5条（会員）

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

### 第6条（会員の入退会手続）

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

### 第7条（会 費）

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

## 第4章 役員

### 第8条（役員）

本会は会長1名、副会長2名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

### 第9条（役員の任期）

- （1） 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- （2） 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。  
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- （3） 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

### 第10条（役員の職務、権限）

- （1） 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- （2） 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- （3） 理事は理事会を構成し、会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- （4） 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- （5） 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

### 第11条（役員を選任）

- （1） 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。  
選出の方法は細則による。
- （2） 理事の中に推薦理事と顧問を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授を推薦理事とする。また、教授退任後は顧問とする。
- （3） 会長、副会長は理事の互選とする。  
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

## 第5章 会議

### 第12条（総会）

- （1） 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- （2） 総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- （3） 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- （4） 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- （5） 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

### 第13条（理事会）

- （1） 理事会は会長がこれを召集する。
- （2） 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- （3） 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。



- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

## **第6章 事務局**

### **第14条 (事務局)**

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

## **第7章 会計**

### **第15条 (本会の経費)**

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

### **第16条 (会計年度)**

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

## **第8章 会則の改正**

### **第17条 (会則の改正)**

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

## **第9章 その他**

### **第18条 (その他)**

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

### **第19条 (本会則の発効)**

- 本会則は平成9年12月1日から発効する。
- 本会則は平成12年12月3日から発効する。
- 本会則は平成16年11月28日から発効する。
- 本会則は平成18年12月3日から発効する。
- 本会則は平成24年12月2日から発効する。

## **聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則**

**第1条** 本細則は会則第18条によりこれを定める。

### **第2条 (会費)**

(1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。

- ・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額 5,000 円
- ・その他の会員は年額 10,000 円

(2) 70 歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

### 第 3 条 (役員を選出)

- (1) 役員の定数は、理事 15 名以上、監事 2 名とする
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授は会長を兼任できない。
- (5) 会長は聖マリアンナ医科大学卒業生に限る。
- (6) 会長、副会長の任期は 3 年 2 期までとする、ただし再任は防げない。
- (7) 役員は 65 歳で定年とする。

### 第 4 条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

### <附則>

#### 第 5 条 (本細則の発効)

本細則は平成 9 年 12 月 1 日から発効する。

本細則は平成 11 年 11 月 28 日から発効する。

本細則は平成 12 年 12 月 3 日から発効する。

本細則は平成 16 年 11 月 28 日から発効する。

本細則は平成 17 年 12 月 4 日から発効する。

本細則は平成 22 年 12 月 5 日から発効する。

本細則は平成 27 年 11 月 29 日から発効する。

### 《編集後記》

今回、表紙とさせていただいた写真は浄水場から日の出とともに聖マリアンナ医科大学を撮ったものです。

平成 29 年度は新人入医局員が 5 人も入局し、さらに活気づいております。昨年とあわせ、計 11 名の若手が医局におり、一人前の耳鼻咽喉科医となるよう医局全体で指導を行っております。四門会の先生方には益々のご協力およびご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

皆様の健康と益々のご発展を祈念しております。 (三上公志)









